

ネットワークの強化

地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献する
より安全で、使いやすいネットワークへ



新規建設

ひと、モノ、未来をつなぐ

交通混雑の緩和、交通安全の確保、災害時の代替機能強化や地域活性化などを目的として、高速道路の建設事業を推進しています。

建設進捗情報



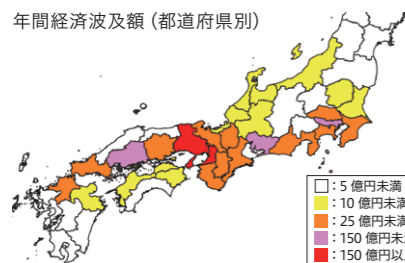
新名神高速道路（高槻JCT・IC～神戸JCT） 開通5年の整備効果

2018年3月18日に新名神高速道路(高槻JCT・IC～神戸JCT) 43.1kmが開通してから5年を迎え、名神・中国道とのダブルネットワーク化等による整備効果が現れています。

経済波及効果

- ・新名神開通に伴う経済波及効果は全国で年間1,500億円以上
- ・雇用者数増等、地域の雇用誘発効果も

年間経済波及額（都道府県別）



各都道府県公表の産業関連分析に基づく

交通渋滞の解消

- ・名神・中国道（高槻JCT・IC～神戸JCT）の渋滞が51%減少
- ・繁忙期の所要時間のばらつきが38分→4分に減少（定時性が向上）



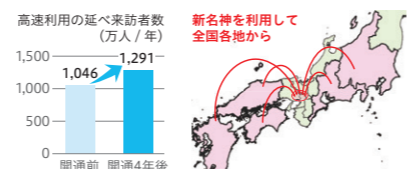
新名神開通前の中国道 宝塚東トンネル付近の渋滞

沿線地域の利便性向上

- ・自宅から15分以内に高速道路を利用できる方が約39万人増加

地域活性化

- ・高速道路を利用した開通区間沿線地域への来訪者が約20%（約245万人）増加



出典：「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD

物流への貢献

- ・高槻JCT・IC～神戸JCT間を通過する大型車の9割が新名神を利用（東西の物流を支える重要な道路として機能）
- ・沿線で物流施設が約40件、大規模小売店舗が約120件増加



出典：日本立地総覧（(有)日本立地ニュース社）
出典：大店立地法届出（経済産業省）
物流施設・大規模小売店舗の累積立地件数

リダンダンシー効果

- ・名神・中国道とのダブルルート形成により、事故通行止めを回避
- ・最大約30km予測の渋滞を回避し、中国道リニューアル工事が可能に



新規建設区間の概要

① 新名神高速道路

大津JCT～城陽JCT・IC 25.1km
八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC 10.7km

整備効果

1. 近畿圏と中部圏の連携強化
2. 開通済みの新名神高速道路・京奈和道・第二京阪道路へ接続する重要な連絡路
3. 名神高速道路の代替路の確保

② 神戸西バイパス（第二神明道路北線）

永井谷JCT～石ヶ谷JCT 6.9km

整備効果

1. 物流ネットワーク拡充による東西方向の物流効率化
2. 交通混雑の緩和による第二神明道路の事故減少
3. 第二神明道路の代替路の確保

③ 大和北道路（京奈和道）

奈良IC～郡山下ツ道JCT、奈良北IC～奈良IC 12.4km

整備効果

1. 交通混雑の緩和・交通円滑化
2. 交通の転換による、国道24号の交通事故減少
3. 移動時間短縮による観光行動の支援
4. 沿線地域の整備による産業の活性化

④ 淀川左岸線延伸部

門真JCT～阪神高速道路接続部 1.1km

整備効果

1. ネットワークの拡充による大阪都市圏の交通円滑化
2. 並行する都市高速における通行規制時の迂回路確保及び災害時の避難・救護活動を支える広域的な輸送路としての機能確保
3. 物流の効率化による沿線地域への新たな企業進出等、地域経済の活性化



新名神高速道路 高槻JCT・IC付近



神戸西バイパス 菅野交差点付近



大和北道路 郡山下ツ道JCT付近



淀川左岸線延伸部 門真JCT接続イメージ



ミッシングリンクの解消

2022年12月、国土交通省と共同で整備を進める大和北道路のうち、当社が工事を担当する区間では初となる橋脚が完成しました。大和北道路は、主要都市間を連絡する高速道路が未整備となっている、いわゆる「ミッシングリンク」と言われる区間であり、周辺地域の慢性的な渋滞などが問題となっています。橋脚完成により大和北高速道路が形となって見えてきたことで、地域の皆さまの完成への期待や地域活性化への期待が高まっているのを感じています。地域や行政と連携を図りながら、一日も早い完成を目指します。



関西支社 奈良工事事務所 大和郡山工区 工事長 木越 健二

4車線化・6車線化

安全・安心の更なる向上を目指して

■ 暫定2車線区間の課題

速度低下・渋滞

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追越ができないため、後続車両を含め全体的に速度が低下し、渋滞が発生しやすくなっています。

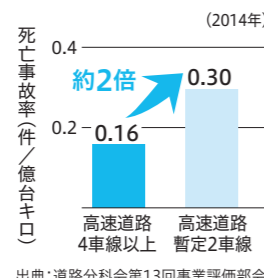


阪和道 印南IC～みなべIC

→ 時間信頼性確保

正面衝突等による重大事故

反対車線と完全に分離する構造になっておらず、ひとたび事故が発生すると、正面衝突に発展する等により、死亡事故等の重大事故となるおそれが高くなっています。



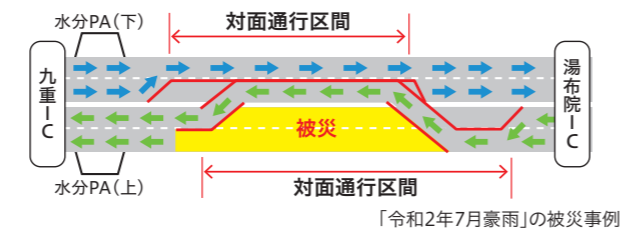
→ 事故防止

事故防止の緊急対策として実施している区画柵の設置については、P.18へ

通行止めの発生や長期化

- ・事故や積雪等による立ち往生発生時に追越ができず通行止めとなります。
- ・大規模な工事を実施する際に、長期間の通行止めが必要となります。
- ・災害発生時における全面通行止めの解除に時間がかかります。

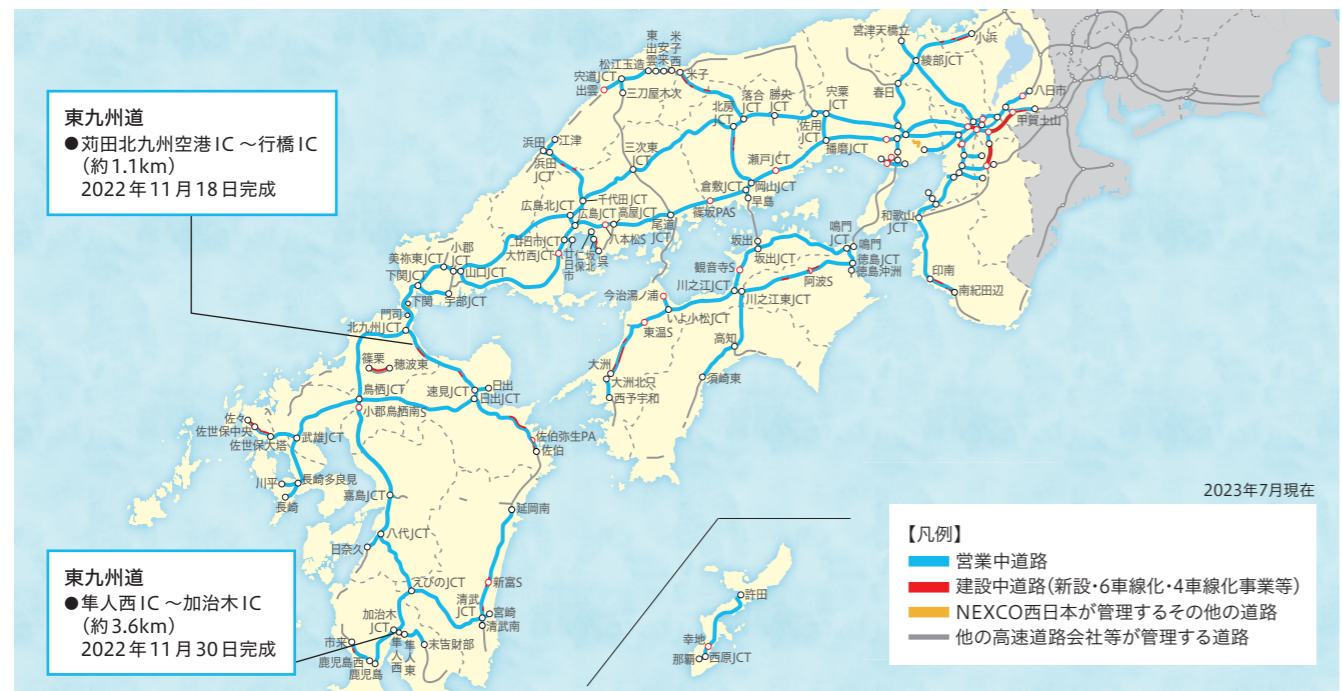
→ ネットワークの代替性確保



4車線区間では、上下線のいずれかが被災しても残る車線を対面通行とすることで、早期に交通機能を確保し、復旧支援や緊急物資運搬等に大きく貢献できます。

■ 課題への対応 — 4車線化 —

暫定2車線区間における課題を踏まえ、当社としては、お客さまの安全・安心の確保、大規模災害時の早期復旧の支援等の観点からも、暫定2車線区間の解消を重要な施策と認識し、計画的な4車線化を推進しています。



① 4車線化完成後に、広島呉道路 呉トンネル下り線となる予定のトンネル掘削工事の様子。広島呉道路は、平成30年7月豪雨により大規模な盛土崩落が発生し、国道・JR線を含め長期間の交通寸断が発生した路線です。防災・減災のため、4車線化事業を推進しています。

② 西九州道では、交通混雑緩和等のため、4車線化事業を実施しています。県道が並走する市街地区間等で長期間の夜間工事を行っており、騒音振動等に細心の注意を払いながら慎重に施工しています。

③ 松山道4車線化事業では、急峻な地形の中で施工する箇所も多く、地すべり対策や大規模な仮橋の設置を行い安全第一に工事を進めています。

現場見学会を通して地域の教育に貢献

当社グループは、「人とモノの流れを支える」という高速道路の役割を果たすだけでなく、建設現場や料金所等を地域の教育の場として提供する活動を続けています。



ジュニア防災リーダークラブ現場見学会(愛媛工事事務所)

Voice

地域との幅広い交流

愛媛大学・東京大学・松山市が主催するジュニア防災リーダークラブ活動の一環として、高速道路の事業説明と建設現場見学を行いました。小学生～高校生の幅広い参加者の方に、建設・改築事業を含む高速道路の地域防災上の役割や橋梁の構造への理解を深めていただくことができました。

これからも、地域の皆さまに興味関心を持っていただけるような現場見学会等のイベントを企画していきたいです。



四国支社 愛媛工事事務所 工務課 溝上 尚弥

社会の変化とともに高速道路も、より強く

■ 新名神高速道路の6車線化

1. 物流効率化

新名神の大型車交通量は供用後、増加傾向にあり、ダブル連結トラックやトラック隊列走行など、次世代の物流システムの実現を見据えた対応が必要になります。6車線化により、走行快適性に加え、低速度の大型車と高速度の普通車の混在を減らすことで安全に走行できます。また、物流の効率化に寄与し生産性向上が期待されます。

2. 災害時における代替性の強化

名神とのダブルネットワークの安定性向上により、ネットワークの代替性が強化されます。降雪や地震等の災害発生時に名神が通行止めとなった場合でも、新名神が代替路として機能し、東西軸の安定的な交通確保に寄与します。

3. 名神高速道路のリニューアルプロジェクト時における渋滞の抑制

今後本格化する名神のリニューアル工事実施時に、名神からの迂回車両により新名神の交通量が増加した場合においても、渋滞の発生を抑制し、名神軸の円滑な交通確保に寄与します。

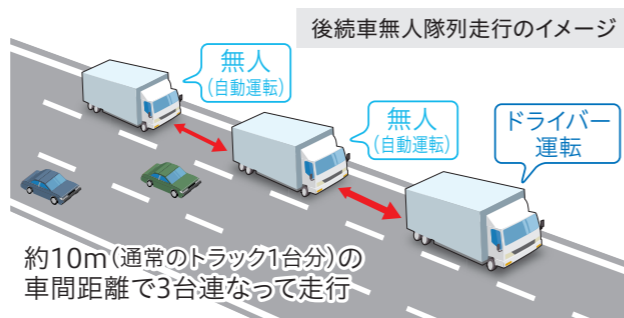


2023年3月30日、甲賀土山IC～甲南IC間約6kmの6車線化が完成しました

後続車無人隊列走行の実現を見据えた整備

物流業界では、近年、トラックドライバー不足が深刻化しています。労働生産性の向上や働き方改革の実現など、短時間で長距離の輸送を可能とし、輸送効率の向上に寄与する高速道路の重要性が高まっています。

現在、後続車無人隊列走行システム(東京～大阪間)の商業化が進められており、実現に向けた安全で円滑な走行区間の確保などの観点から、新名神高速道路の6車線化等を進めています。



Voice

工事中も開通後も、安全・安心な道路

滋賀県の甲賀土山IC～甲南IC間約6kmの区間を6車線に拡幅する工事を担当しました。この区間では、拡幅する部分の車線幅を確保するために、上り線と下り線の中央部の盛土を取り除く工事を行いました。既存車線の車線規制を行わずに累計7千台以上の工事用車両を追越車線に合流させる必要がある等、6車線化工事特有の難しい面も多くありましたが、無事故で終えることができ、大きなやりがいがありました。日本を支える重要なインフラの一つである高速道路を、何年先も安全・安心にご利用いただけるものにできるよう、これからも努めていきたいです。

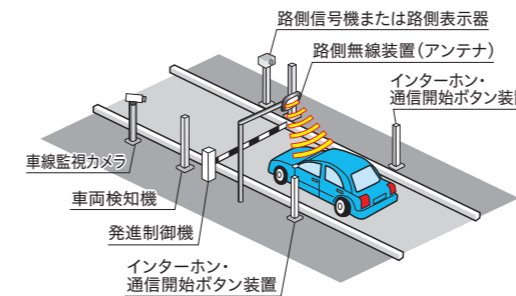


関西支社 新名神大津事務所 甲賀東工区 藤掛 佑基

スマートIC

スマートICは、高速道路の本線やSA・PA、バスストップから乗り降りができるように設置されたICです。通行可能な車両を、ETCを搭載した車両に限定しているため、簡易な料金所の設置で済み、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。

スマートICの整備により、市街地や観光地へのアクセスが向上し、高速道路が更に利用しやすくなります。当社では、2004年12月に初めてスマートICが開通し、現在は37カ所のスマートICが開通済みです。また、11カ所で新たなスマートICの建設事業を進めています。



スマートIC設置情報



建設事業中スマートIC 11カ所 (名称は仮称を含む)

Voice

2022年8月7日 松江道 雲南加茂スマートIC 開通



この度開通した雲南加茂スマートICには、高速道路へのアクセス向上により産業、観光、医療、生活利便性の向上など様々な効果を期待しています。雲南市では、インターチェンジ周辺において、高速道路直結型の企業団地整備を進めています。また、さくら名所100選に選ばれた斐伊川堤防桜並木や、ヤマタノオロチ伝説ゆかりの地等、本市にはたくさんの観光資源があることから、今後スマートICを活用した観光事業プランを考えたいと思っています。ぜひ、雲南加茂スマートICを利用して、神話の息づく雲南市へお越しください。

島根県 雲南市 石飛 厚志 市長

